特集

暮らすこの平戸で

平戸市は、全国の皆さんからのふるさと納税を財源として、これまでさまざまな事業を実施しました。そして、その事業によって、市内の事業者が新たに創業したり、事業拡大が図られました。また、平戸にUIターンで移住してくる人たちも増えています。平戸で暮らすことで、新たな魅力も見えてきました。

平戸市の目指す将来像

広報ひらど4月号で紹介の施政方針の中で、平成29年度は特に人口減少対策に重点化を図るとして、平戸市総合戦略を紹介しました。「雇用の促進」「産業の振興」「子育て支援」「定住・移住の促進」を基本目標として、予算を重点配分して取り組んでいくとお伝えしましたが、これまで実施した施策が「どのくらい効果があったのか」を数値化して把握することも重要です。

また、実際にこの施策を活用して事業を行った人たちが、どんな思いで移住や創業してきたのかを把握することで、よそとは違う平戸市の魅力が何かを見いだすことが、平戸市が目指す将来像の強みとなります。

ふるさと納税を財源に

全国的にも、ふるさと納税はお礼の品や寄附金額に注目が集まりがちですが、その一方でその財源がどれだけ地域産業の活性化や観光振興、移住定住につながっているかはあまり話題になっていません。

また、ふるさと納税は災害時の復旧・復興に必要となる資金調達を支援することもできます。平戸市では、全国から寄附されたふるさと納税で、地域の課題解決や災害支援など、新たな事業を支援できるような施策に取り組み、活用していきます。

平戸ならでわの「魅力」

「平戸の魅力は何ですか?」と質問されると、自然・文化・歴史・新鮮な野菜や海産物などが思いつきます。しかし、これは全国1，741ある市町村の半数以上がこう答えるでしょう。つまり、この魅力は平戸だけでなく、他の自治体の魅力でもあるということになります。

今回の特集では、平戸で暮らす移住者や、創業または事業拡大した人たちの取り組みを取材しました。そこから見えるよそにない平戸独自の「魅力」を紹介します。

平成28年度の実績

移　住(UIターン)

33世帯**79**人

≪内　訳≫

九州45人・関東12人・関西11人・東海8人

中国2人・東北1人

※市が実施した移住定住補助申請を介して移住した人の数で、長崎県内からの移住者も含む。

創業支援

14事業所

≪内　訳≫

飲食業4件・宿泊業3件・食料品製造業1件

自動車板金業1件・左官業1件・医療業1件

理容業1件など

※創業支援事業所の件数は、市の補助金または会議所、商工会の支援を受けて創業した数。

ふるさと納税

寄附件数・金額

26,909件

1,652,835,392円

（うち熊本震災代理受付分　1,694件　48,875,678円）

そのうち

888,697,426円

が市の事業に活用されました。

▲ゲストハウスから見える根獅子の海の風景。

平戸に移住して創業

根獅子は宝の山
海の幸はもちろん山の幸も魅力的でした
しかし、移住への一番の決め手は
地域の人たちとの繋がりに魅力を感じたこと

平戸を選んだわけ

吉田さん家族は、京都の山間部で自給自足の生活を行う団体に佑介さんが勤務していたころ、独立を考えていた時に、平戸にいる友人を訪ねたのが根獅子町へ移住するきっかけでした。そこで、アウトドアフィールドとしての雄大な自然、友人を介した地域の人との繋がりに魅力を感じ、1週間の滞在中に移住を決意し仕事と住居を決めたそうです。そして平成27年9月、平戸市へ移住しました。

暮らし始めて

移住後、根獅子町の協議会が募集していた地域おこし協力隊のことを知り、すぐに応募し、7カ月間従事しました。主な業務としては、地域振興活動の補助、イベント運営、農家の作業を手伝うなどで、地域とのコミュニケーションも図ることができました。

任期を終えた後は、根獅子町の空き家を改修し定住しました。また、京都時代にアウトドアガイドをしていたので、平戸の自然の魅力を伝えるために適した活動として、移住後にシーカヤックガイドの資格を取得しました。現在は、市内のシーカヤックサービスを提供する団体にも所属し、カヤックの体験ガイドを行っています。その他、移住前に狩猟免許（わな猟）を取得し捕獲と解体技術を学んでいたので、現在は平戸猟友会に属し、地域における獣害対策の一員として従事しています。また地域の人と共に農作業や伐採作業などを行ったり、空き家問題の解決のために大工技術を学び、家屋の保全などに努めていきたいと思っています。（佑介さん）

地域のルールを尊重

移住するにあたり、心がけていることは、地域の人たちに、溶け込むことです。よその地域から移住してくると、その地域のしきたりなどわからないことが多々あります。そのため、町内の行事・神事・役・農作業などに参加し地域の人から多くのことを教わっています。また、Iターン者・Uターン者・地元の人を含む周囲の友人たちと、ゆるやかに繋がる持続的な地域おこしを模索し、活動する際は互いに助け合うことを大事にしています。（佑介さん）

ゲストハウス開業

根獅子町で、暮らしていく中で、根獅子には美しい白浜と青く澄んだ海があり、多くの人が訪れるものの、滞在する宿泊施設がほとんど無いということを知り、眺望が素晴らしい立地を活かし、古民家を改修し、ゲストハウスをオープンしました。多くの人の支援により、成し得た移住と空き家再生なので、旅の拠点としてのゲストハウスのほか、空き家再生モデルやローカルビジネスモデル、移住相談の窓口として、ご恩とご縁を社会に還元していけたらと思っています。（綾子さん）

▲室内にはハンモックなどもあります。

Profile

ゲストハウス　山彦舎（やまひこしゃ）

吉田　佑介さん
綾子さん
果歩ちゃん

平成29年4月、根獅子町にゲストハウス山彦舎をオープン。昔ながらの古民家を地域の人や仲間たちと共に改修。一棟貸しで1日1組限定の自炊型素泊まり宿泊所として営業しています。

ゲストハウスの管理運営は綾子さんが行い、佑介さんは、アウトドアガイドの他、イノシシの捕獲や環境整備など、地域の人たちと共に活動しています。

山彦舎（やまひこしゃ）　検索

地域の声 -interview-

根獅子集落機能
再編協議会　会長

濵﨑 保久さん

定住してくれたことに感謝し
私たち地域の人たちも支援します

吉田さんは、地域おこし協力隊として家族ぐるみで移住してきたので最初は不安な思いもあったようです。私たちの地域も、若い人材の都市部への流失で地域行事の人手不足や高齢化、またイノシシ被害など地域がかかえている課題がありましたが、吉田さんたちが定住して地域活動や行事にも参加してくれて、いろんな面で活気がでてきました。

そして、何より地域のしきたりなどを知ろうとして地域に溶け込んでくれたことがとてもありがたかったです。今後は、吉田さん家族が快適な生活が送れるよう、自分たち地域も一丸となって、いろんなことに協力していこうと思っています。

平成29年度創業支援・移住定住支援の取り組み

皆さんも、市の支援事業を使って、創業、定住しませんか?

創業支援事業

ものづくり創業支援事業補助金

創業支援促進事業

対象者
市内に事業所を設置し、または設置しようとしている人で製造業、情報通信業を営む人

補助内容
対象経費の3分の2以内(離島地区は4分の3以内)で、1事業当たり上限500万円
(対象経費が75万円未満の場合は対象外)

創業支援事業

対象者
市内に事業所を設置し、または設置しようとしている人で卸売業、小売業(無店舗小売業を除く)、宿泊業、飲食業、医療業、福祉業、サービス業などを営む人

補助内容
対象経費の2/3以内(離島地区は3/4以内)で、1事業当たり上限100万円(対象経費が75万円未満の場合は対象外)
※空き店舗などを活用する場合は、上限200万円(対象経費が150万円未満の場合は対象外)

※その他、平戸起業塾・個別創業相談会なども随時開催しています。

にぎわいづくり支援事業補助金

対象者
①新たに創業する人、
②創業後5年未満の人、または実質的な事業開始から5年未満の人

補助内容
本市で実例のない、創造的技術、アイデアなどにより新たな事業に取り組む事例で次のいずれかに該当する事業を行う人
■製品やサービスなどに新規性や創造性がある先駆的な事業
■市場性や成長性が期待できる事業
■市内の雇用増加が期待できる事業
(対象経費の2/3以内で限度額50万円)

平戸市中小企業創業支援資金

対象者
市内において新たに創業しようとする人、または創業後一定期間未満の人※別途、詳細な条件があります。

補助内容
【利率】1.4%/年【融資の種類】運転資金・設備資金
【融資限度額】1,000万円(特定創業支援認定者は1,500万円)
【融資期間】運転資金は7年以内(うち据置1年)、設備資金は10年以内(うち据置1年)
【保証人】特別な事情がある場合を除き法人代表者以外は不要
【保証料】市が全額保証

「やらんば!平戸」応援基金
平戸市 ふるさと納税
を活用して整備しました

平成28年度は、全国の皆さんから寄附されたふるさと納税から、この2つの支援事業に約5千万円が財源として活用されました。今後も、平戸市は、暮らしている人が元気になる取り組みを支援します。

移住・定住支援事業

移住費用支援事業

対象者
平成27年4月1日以降に定住を目的として移住する人(※市内外の事業所間で転勤する人を除く)

補助内容
市外から移住する際に生じる荷物運搬料および交通費(有料道路代、燃料費など)の3分の2(上限20万円)

中古住宅改修費用支援事業

対象者
平成27年4月1日以降に転入した人で市内の中古住宅を取得する人または市内に中古住宅を所有している人

補助内容
居住を目的とした家屋の改修経費および放置されていた家財道具の撤去に要する経費の2分の1(上限50万円)
※平戸市の空き家バンクに登録した物件に限ります。
※新規転入者住宅取得支援事業における中古住宅取得の補助と併用利用可

注意事項
補助金の交付を受けて5年以内に住宅を売り渡したり、居住しなくなった場合、または本市から転出することとなった場合は、補助金の全部または一部を返還していただく場合もあります。

住宅取得支援事業

check 「グリーンヒルズ」を市から購入し、新築した場合は20万円を加算

新規転入者

対象者
新規転入者で市内において住宅を取得する人

補助内容
市内業者が施工する新築住宅取得費の10%または200万円のいずれか低い額
市外業者が施工する新築住宅取得費の5%または100万円のいずれか低い額
中古住宅(宅地代含む)中古住宅取得費の7%または50万円のいずれか低い額
※中古住宅は、平戸市の空き家バンクの登録物件に限ります。

Uターン者

対象者
Uターン者またはその2親等以内の親族で、市内に住宅を所有している人
※Uターン者とは、平成24年4月1日以降に転入した人で、過去に市内に住んでいたことのある人

補助内容
Uターン者またはその2親等以内の親族が所有する市内の物件で、Uターン者の居住を目的とした家屋の改修経費の2分の1(上限50万円)

市内在住者

対象者
市内在住者で、市内業者により住宅を新築する人

補助内容
住宅取得費の3%または30万円のいずれか低い額
ただし、高校生以下の子どもが同居する世帯は、高校生以下の子ども1人につき10万円加算

平戸に帰ってきて創業

≪Uターン者≫

生月町
石橋　幸喜(こうき)さん

都会でなく地元で自分がやりたい夢を実現

平成29年3月に、平戸市の創業支援事業を活用して、ヘアーサロン「blissful」を開業した石橋さん。地元の高校を卒業後、愛知県で働きながら専門学校に通い、卒業後も美容師として名古屋で13年間、佐世保市の理容室で7年間従事していました。そのため、男女問わず、全ての年代を受け入れる技術をその間に身につけました。

「佐世保で働いている時から地元で独立して自分の店をもちたいという夢はもっていて、佐世保勤務の時に、

上司が独立するということで、一緒にお手伝いをした時に、自分も独立したいという気持ちになりました」と話していました。

リラックスできる空間を

お店の名前が「至福の時」という意味なので、開業するにあたって、内装などにもこだわり、木をふんだんに使ってお客さんがリラックスできる、居心地のいい空間を目指しました。また、髪を切る時には、人それぞれ顔や骨格が違うので、その人にあわせた理想のスタイルを提案しています。

今後は、若い人だけでなく、老若男女の憩いの場として愛されるような場所になればと思っています。

平戸で暮らして創業

≪市内在住者≫

紐差町
森﨑　啓好(ひろよし)さん

両親が積み上げてきた「意志」を引き継ぐ

繁殖雌牛の新規導入を目的に、ふるさと納税を財源として、平成28年度ずっと住みたいまち創出プロジェクトの「平戸式もうかる農業実現支援事業」を活用した森﨑さん。学生時代から、両親が営んでいた畜産業を手伝いながらも、一度は建設業、サービス業など別の仕事に従事してきました。

転機となったのは平成27年に「このままでは、両親が積み上げてきた”意志”を引き継ぐ者がいなくなる」と危機を感じて新規就農。現在は、奥さんと子どもに囲まれながら、平戸の農業をさらに発展させるべく、努力と研究を続けています。

補助を活用して規模拡大

私は「肥育」だけでなく、種付けから子牛まで育てて出荷する「繁殖」にも取り組み、自分なりの工夫を入れることで、さらに事業を拡大できないかと考えました。

しかし、繁殖農家の場合、起業するための資金を準備するのも大変です。市役所の担当課へ何度も相談に伺ったり、仲間うちで情報を共有して、認定を受け補助を申請しているところです。今後は、経営規模を拡大するために新しい牛舎を建設していけたらと思っています。

夢を実現できるまち

夢を実現させるためには、さまざまな苦難が伴い、移住する時や、創業する時は特に不安になることがあるかと思います。そんな時に、このまちの支援の手を活用してください。

平戸市は、移住希望者がより快適に移住しやすい環境、創業希望者が新しいことに挑戦しやすい風土を育てていきます。地元民はもちろん、移住者の人たちも創業を実現できるよう、さまざまな支援策を推進します。

今回紹介した事例以外でも、市内の各地において創業または規模拡大した事業者がいます。多くの人たちが創業したり規模拡大することで、夢の実現と同時に、この地域における職業の選択肢の多様化を実現し、まちの活性化にもつながります。平戸で暮らす中で、地域の人たちや行政と一緒に新しいことに挑戦でき、まちの活性化に貢献できる。これこそが、よそにない平戸の「魅力」ではないでしょうか。

平成29年度ふるさと納税の活用事業の取り組み

長崎・日本の最西端 平戸市(さんさん) Hirado Premium Quality

ふるさと納税は、日本で唯一の税金の使い道が指定できる制度です。全国から寄せられた寄附金は、平戸市総合計画の中で特に重要な事業、「やらんば燦燦プロジェクト」で設定している3つの事業に活用する予定です。

やらんば燦燦プロジェクト

輝く人づくり
（充当予定額 71,966千円）

【地域を担う人材の育成】

「まちづくりの基本は人づくり」であることから、地域のリーダーとして活躍する人材や産業、教育、福祉などさまざまな分野で地域を支える人材の確保と育成を図り、市民が互いに支え合う温かみのあるまちの実現を目指します。

宝を磨き活かす
（充当予定額 2,079,493千円）

【文化遺産や地場産品を活用】

平戸の魅力である豊富な農林水産物や、海外との交流によって形成された特色ある歴史文化などの地域資源を、地域の「宝」へと磨き上げます。そして、その宝を観光や産業振興に活かし、地域の活性化や交流人口の拡大につなげます。

ずっと住みたいまちの創出
（充当予定額 276,847千円）

【愛されるまち“平戸”を目指して】

農林水産業などの地場産業の振興や、企業誘致による雇用の創出を推進します。また、子育て世代や高齢者に対する福祉の充実を図り、市民が地域に誇りと愛着を持ち「ずっと住み続けたい」まちづくりを目指します。

地域の課題解決に特化した取り組みも！

ガバメントクラウドファンディング（GCF）

ガバメントクラウドファンディング（GCF）とは、政府（自治体）が行うクラウドファンディングです。事業主体は、自治体であり、寄附金額すべてがふるさと納税の対象となります。寄附者の意思を直接反映することができる、課題解決に特化したふるさと納税の形です。

平戸市も、今後はGCFなどを活用しながら、地域課題解決に向けた取り組みを市民と一緒になって支援していきますので、ぜひご活用ください。

≪地域課題解決に特化した GCF の例≫

松浦市

新しい生鮮加工品や観光プログラムの商品を開発し、島の産業を活性化

「青島1000年漁」を未来へ残そう

波佐見町

町のみんなから愛される旧講堂を蘇らせるために

「旧波佐見中央小学校講堂兼公会堂」復活

長野県軽井沢町

世界中の教育機会に恵まれない子ども達に日本で学ぶ機会を!

全寮制国際高校ISAK開校

「世界を変革できる人」を育てる